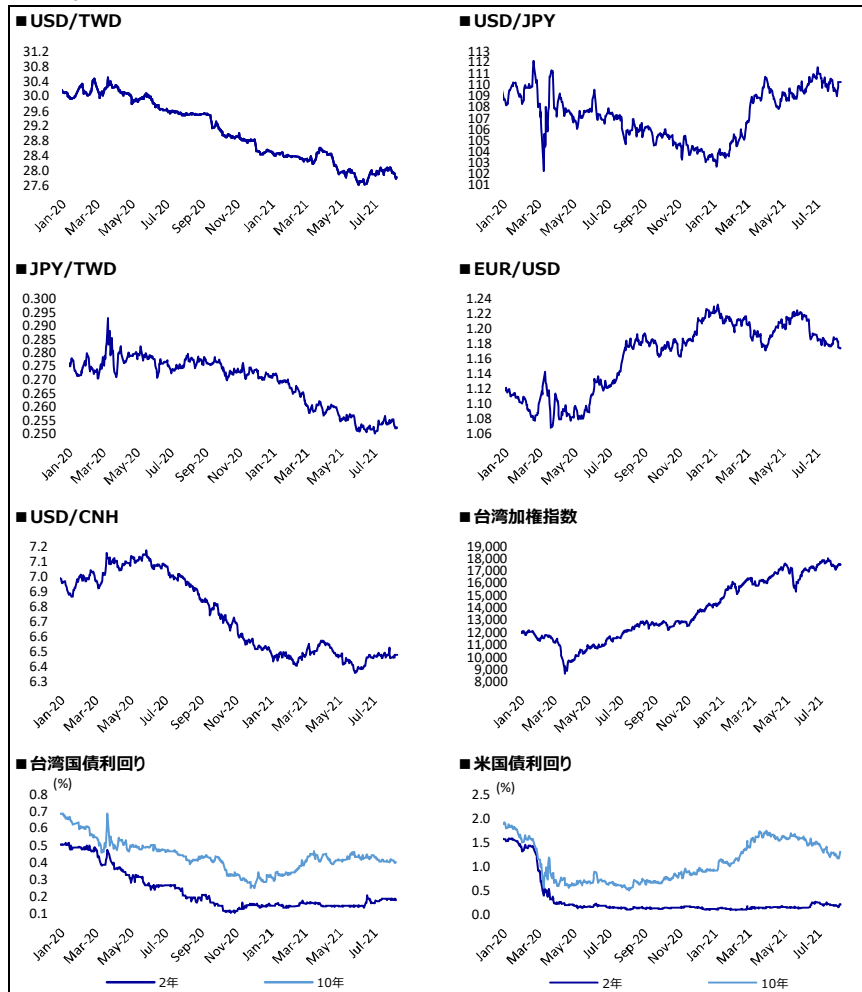


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/2は27.980でオープン後、月初で輸出企業のドル売りは少ないものの、台湾株の上昇と共に外資の台湾ドル買いが優勢となり、27.90付近まで下落。8/3は方向感なく推移したが、8/4に入るとドルの買い手が少ない中、台湾株の上昇につられて再び台湾ドル高となり、27.80付近まで下落。8/5は台湾株は横ばいに推移するも外資の流入が続き、台湾ドルは買われ一時27.730まで下落。その後は27.80付近に戻され、8/6も米雇用統計を控える中、同水準の狭いレンジで推移した。最終的には先週比0.5%ドル安台湾ドル高の27.813で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は324.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/2は109.76でオープン後、米金利がじりじりと低下する流れを受けて109円台前半で推移。その後、米7月ISM製造業景況指数が予想を下回ると米10年債の利回りが1.15%まで低下する動きにつられてドル/円も109円台前半で推移。8/3は米金利の低下につられてドルが売られると108円台後半まで下落したが、米6月製造業受注が予想を上回り、耐久財受注確報が上方修正されると、下げ渋り、再び109円台に戻した。8/4は米7月ADP雇用統計が予想を大幅に下回ったことから、週末の雇用統計への警戒感が高まり米10年債の利回りは1.12%に低下し、ドル円は108.73まで下落。しかし、その後の米7月ISM非製造業景況指数が予想を上回ったことやFRBのクラリダ副議長のカカ派な発言すると、米金利の上昇とともに109円台前半まで戻した。8/5は米新規失業保険申請件数が減少したことを受けて米金利が上昇するとドル円も上昇。翌日に雇用統計の発表を控えるも、米株式市場が堅調に推移し、米金利の上昇も続いたことからドル円は109円台後半に。8/6は米雇用統計で非農業部門雇用者数が予想を上回ったことから、米金利の上昇と共にドル円も一時110.36まで上昇。最終的に先週比0.5%ドル高円安の110.24で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.700-27.950
先週は株価の上昇につられ、外資の流入から台湾ドル高の流れとなった。今週も引き続き、株価の動向に左右される展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.50-111.20
今週は米CPIの発表を控えている。一時的な上昇との見方があるものの、高い水準が続いており、米金利の上昇に繋がれば、ドル高の流れが強まることには警戒したい。

今週の予定

8/9 (MON)	日本休場、台湾7月貿易収支
8/10 (TUE)	
8/11 (WED)	米7月CPI
8/12 (THU)	米7月PPI
8/13 (FRI)	米8月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。